

大和市議会議員 虹の会
おおなみ 修 二

2020年9月議会の報告

大和市西鶴間5-22-6 TEL 263-0578

HP <http://onami-syui.com/>

大和市の新型コロナウイルスの感染者は増え続けています。6月議会でも質問をしましたが、今回も対策強化に向け、市の考えを聞きました。また、大切な人の命に時間の経過が関わってくる事は言うまでもありません。大和市の救急医療体制の病院選定のことなど聞きました。 **大波修二**

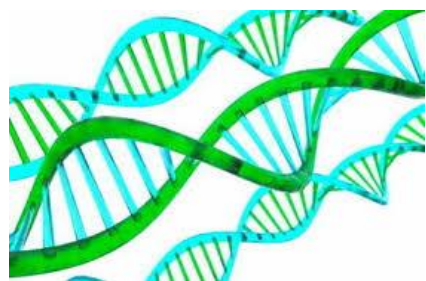


**PCR検査の拡大と
希望者へ市費の負担を**

大波質問 新型コロナウイルスの認識ですが、「誰もが新型コロナウイルスの免疫を持っていないので、全ての人が感染する可能性がある」と言います。日本の新

型ウイルス対策の基
本は、治療法の確立と予防ワ
クチンの開発までの間急激
な拡大を防ぐことです。日本
で新型コロナウイルスの感
染者は1%で、大多数は未感
染の状態にあり、さらに感染
が続くことは確実です。現政
権のコロナに対する姿勢は、
感染拡大防止から、コロナウ
イルスと共存の方策に移行
し、経済社会活動の再生を急
いでいます。しかし現在、ク
ラスタールが頻繁に発生し、多
数の感染者が出ています。感
染経路の対策が1番、2番目
に感染源の対策、宿主免疫対
策（予防接種の関係）この3
つが極めて重要だと言いま
す。今までの政府の対策は一貫し
て、感染経路の対策で、感染者の
濃厚接触者を追跡する「クラスター
対策」が中心でしたが、現在は
2番目の感染震源対策に重点を
置かなければならないと言われ
ています。感染源地を特定して、
感染者の多く出ている地域、職
種、施設を、徹底的に検査の対象
にするということであり、大々的
にPCR検査を実施することに
なります。現在の日本の政策での
PCR検査数は、世界においても

最低の数です。この政府の誤った
判断、方針に対し、最近、日本各
地の医師会や自治体、超党派の議
員グループなどによる、強力な形
で、PCR検査をすべきだとい
う要請が展開されています。PCR
検査の拡大と体制強化について
伺います。また、医療・福祉・教
育に携わる職員の検査について
と、社会的なPCR検査の市費負
担について伺います。
市答弁 検査体制や検査拠点の
拡充は、現在、国が検査能力の増
強、地域の感染状況を踏まえた幅
広い検査、新技術の積極的な導入
などの対策を進めていると承知
している。本年4月、PCR検査
体制の充実を図るため、大和ウオ
ークスルーPCR検査プレイス
の設置に向け、医師会などの協力
を得ながら、取り組んできた。引
き続き国や県の動向を注視しつ
つ、積極的に協力していく。新型
コロナウイルス感染症への対応
の最前線で活動されている方な
どのPCR検査の体制の整備の
必要性が指摘されているが、国や
県が広域的に取り組んでいるも
のと承知している。本市として
は、本市に求められる役割の中
で、新型コロナウイルス感染症の
感染防止に必要な取組を進めて



希望者は誰でもどこでも
PCR検査を受けられる
体制づくりを



新型コロナウイルスの
一日も早い終息を

いき、特定の業種に対するPCR
検査や、社会的な理由によるPCR
検査に対し、独自に助成等を行
うことは考えていない。
大波意見要望 現在はウイズコ
ロナ（コロナとの共存）の方向で
すが、ハイリスクの人たちを感染
してはなくても、誰でもいつでも
どこでも何回でも、PCR検査を
提供していくことが重要です。県
や国に自治体の要求を知っても
らう努力をお願いします。

救急体制の傷病者の 搬送病院選定は

大波質問 いつでもどこでも誰でも適切な救急医療を受けられるよう、1977年に創設された救急病院、救急診療所の告示制度に加え、1977年には、初期・2次・3次の救急医療機関、並びに救急医療情報センターから成る救急医療体制の体系的な整備を進めてきました。しかし、一方では、地域格差の解消、人口の多い財政豊かな自治体と、そうでない自治体との格差、休日・夜間の診療体制の強化といった課題も指摘されています。救急医療は、社会環境や高齢社会への移行、あるいは疾病構造の変化等が密接に関係しており、最近ますます重要性が高まってきています。救急医療体制、昨年中の救急出動件数と時間経過や救急隊の病院選定について尋ねます。

市答弁 昨年中の救急出動件数は1万2118件で、119番受信から現場到着までの平均時間は7分28秒、現場到着から引揚げまでの現場滞在平均時間は17分1秒、119番受信から病院到着までの平均時間は33分5

5秒となっている。病院選定については、大和市救急医療体制を考慮した上で、傷病者の観察結果から、その症状に適応した直近の医療機関を選定している。また、病院中の医療機関がある場合には、傷病者の状態を勘案し選定するほか、緊急性の高い重症外傷や疾病等により、直近の医療機関で対応困難な場合は、市外の救命救急センターを選定している。

大波意見要望 救急車が現場について、倒れている人を観察し、意識・呼吸・脈拍・血圧等、総合的に判断して、医療機関に搬送するまでの17分1秒の時間帯に正確な判断が求められ、非常に厳しい内容になります。人の命がかかっているのです。内容の正しい判断をするためのIC化・ソフト化の研究を進めるべきです。

傷病判断や搬送先選定など 救急体制の手伝いに IC化・ソフト化の導入を



韓国の友好都市 光明市との 国際交流再開を

大波質問 韓国の大法院（日本の最高裁判所にあたる）が元徴用工の強制動員の被害を新日鉄、住友に対し、賠償金請求を認めたとを機に冷戦状態が拡大していましたが、現在は相当時間が経過して、韓国では日本が対話と協力に出るならば、私たちは喜んで手を取るだろうと日本との対話に用意があることを表明しています。地域や自治体での国際交流は政府の顔色をうかがうべきものではないと思います。これまでも国際化協会を通し、大和市は様々な国際交流のイベント等で、先進的な行政が行われていること、私は高く評価をしております。大和市には、7月31日現在で、世界79か国の地域の外国人7247名が住んでいます。外国人市民への総合的な支援や社会参加を促す仕組みづくりができていくという事です。韓国の光明市との国際交流をすべきではないかと思質問します。

市答弁 大和市と光明市は平成21年に友好都市を提携し、これ

まで主に、青少年の相互訪問を通じた交流事業を積み重ねるなど、友好関係を深めてきたところで、光明市も本市と同様に、交流事業の再開を望んでいることを確認しており、両国の行き来が可能となった時点において、まずは青少年相互訪問事業の再開に向けて、協議を進める予定となっている。

大波意見要望 お互いに交流をしていこうと確認をしているという回答でしたが、一日も早く光明市との交流を深めていただきたいです。



世界は一つ
友好関係を築きましょう

※詳細は市議会ホームページをご覧ください